

保護者の皆様

仙台市立長町小学校

校長 高橋 洋充

令和2年度 協働型学校評価の自己評価結果について(お知らせ)

早春の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、2か月間の臨時休業を経て、新しい生活様式に基づきながら教育活動を行って参りました。保護者の皆様、地域の皆様の深いご理解と温かいご支援によりまして、徐々に活動内容を広げた教育活動ができましたことに深く感謝申し上げます。

さて、過日お答えいただきました「協働型学校評価カード」と「教育目標アンケート」について、多くの保護者の皆様から取組について評価していただきありがとうございました。児童、教職員へのアンケートとともに調査結果をまとめましたのでお知らせいたします。今年度の反省を生かしながら来年度の教育活動の企画・立案を進めてまいります。

来年度も保護者の皆様、地域の皆様と連携を深めながら、教育目標の具現化をめざして、努力してまいります。今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

1 今年度の協働型学校評価の重点目標

<学校・家庭・地域 三者協働で育てていく望ましい子どもの姿>

「進んで自分の役割を果たす子ども」
「ていねいな言葉づかいのできる子ども」



家庭

- ・家庭での役割を意識し、家族のために働ける子供
- ・家庭でも丁寧な言葉使い、あいさつを心掛ける
「おはよう」、「ありがとう」、「ただいま」、「おやすみ」

地域

- ・地域の行事に参加し、進んで役割を果たす子供
- ・ありがたい気持ちをこめて、地域の方に進んであいさつができる子供

学校

【低学年】

- ・決められた仕事に丁寧に取組む子供
- ・はっきりとであいさつができる子供
- ・友達を「〇〇さん」と呼び合う

【中学年】

- ・係や当番に責任をもって取り組む子供
- ・明るい声であいさつができる子供
- ・相手に思いやりのある言葉づかいをする

【高学年】

- ・自らの役割を進んで果たし工夫して取り組む子供
- ・お互いに進んであいさつができる子供
- ・場に応じた言葉づかいができる子供

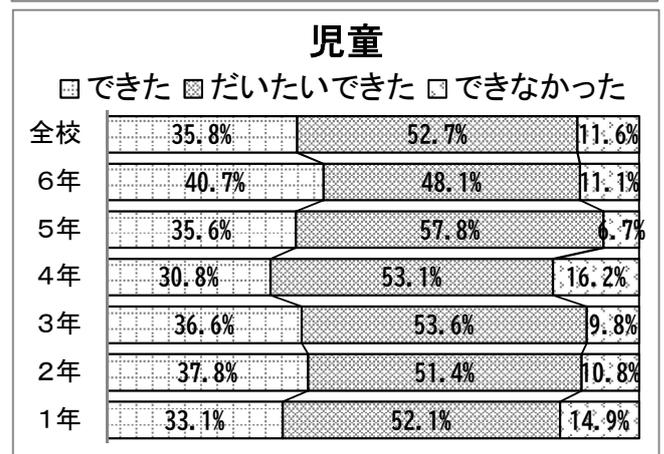
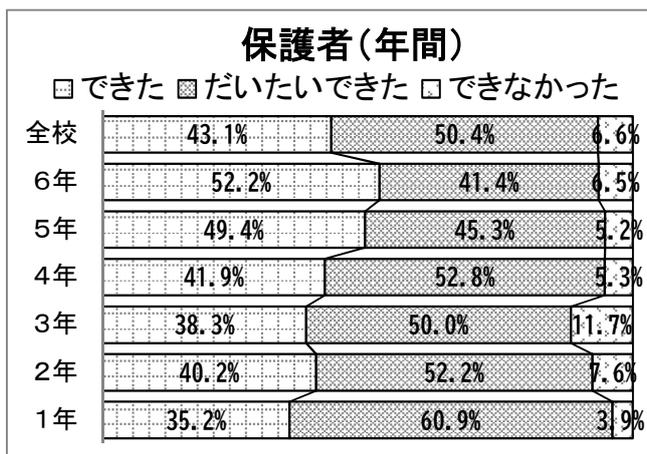
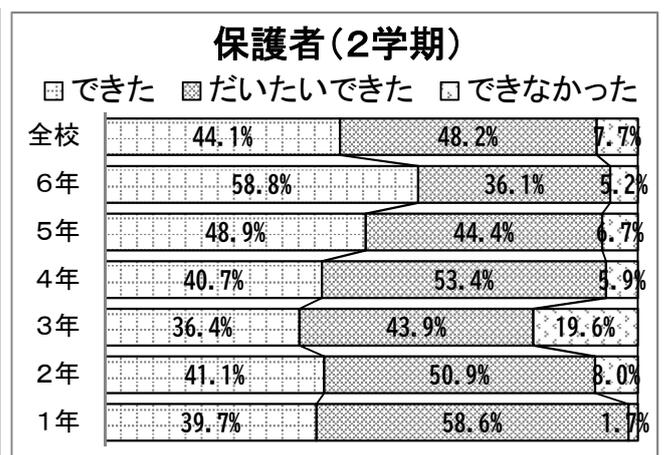
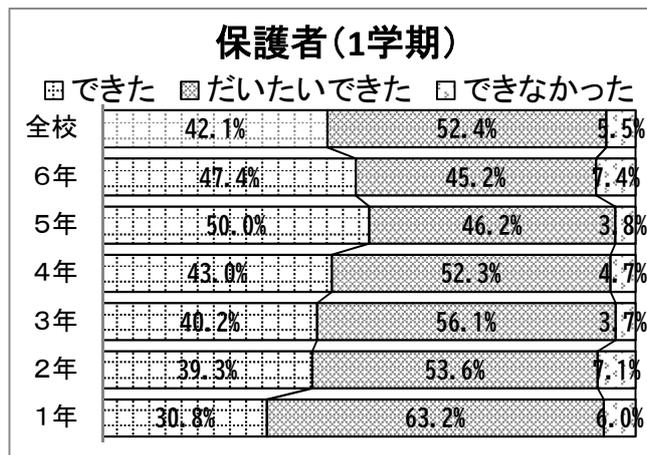
2 協働型学校評価に関する評価カードによる調査結果について

【家庭における努力目標について】

- ・家庭での役割を意識し、家族の一員として自分のできる仕事に毎日取り組むよう習慣付ける。
- ・家庭でも時や場所、状況に合わせた丁寧な言葉づかいを心掛ける。
- ・挨拶を進んで行わせ、周りの人に感謝の気持ちを持って生活させる。

1-A 家族のために・家族とともに（家庭での様子）

☆相談して決めたお手伝いを、毎日あるいは定期的に責任を持って行う。（玄関掃除、配膳下膳等）



- 保護者も児童も、1年を通して「できた」「だいたいできた」が90%前後の割合を占めており、肯定的な評価をしています。保護者がお子さんに家庭での役割を意識させていることや、児童も家族の一員として自分のできる仕事に取り組んでいることがうかがえます。
- 特に1年生と6年生の保護者は1学期から2学期にかけて「できた」の項目が10ポイント近くも増加しています。1年生は、小学校での生活に徐々に慣れてきて落ち着いて生活できるようになり、家庭でもお手伝いをしっかりできるようになってきていることがうかがえます。6年生は、最高学年として自分の役割を果たそうとする自覚が育ってきたことが感じられます。
- 保護者の自由記述には、「お手伝いを進んでやっていた。」「仲間や家族のためにできることを考えて行動できた。」「自分にできることを頑張っていた。責任を持って仕事に取り組んだ。」などが多数見られました。一方で、「何度も同じことを言われてからやることが多いので、できることを自分で気付いて欲しい。」や「進んで行動することに課題が残る」と感じている記述も多く見られました。

保護者も児童も肯定的な意見が多かったことから、各家庭で、自分の役割を認識させ、継続して取り組めるように声を掛けたり、励ましたりしていることがうかがわれます。

子供が頑張ったときに、周りの大人が認め、励ますと、子供は自分が家族の一員として認められたことに喜びを感じ、次もがんばろうとします。子供が家族で相談して決めた仕事やお手伝いを頑張ったときには、ぜひ認め、称賛してほしいと思います。継続してできるようになったら頼りにしていることを伝えながら役割を少しずつ大きくしていただければと思います。

学校でも、学級での係や当番活動、所属する委員会、たてわり活動などで自分の役割を意識させ、責任を持ち、進んで物事に取り組めるように働きかけて行くとともに、取り組んだ課程や結果について認め、励ましていこうと考えています。

2 思いやりの気持ちを持って

☆家庭でも時や場所、状況に合わせた丁寧な言葉づかいを心掛ける。

保護者(1学期)			
	できた	だいたいできた	できなかった
全校	40.1%	26.4%	33.6%
6年	42.2%	28.9%	28.9%
5年	40.9%	19.7%	39.4%
4年	39.8%	23.4%	36.7%
3年	34.6%	26.2%	39.3%
2年	47.6%	24.3%	28.2%
1年	34.6%	37.5%	27.9%

保護者(2学期)			
	できた	だいたいできた	できなかった
全校	40.5%	25.2%	34.3%
6年	45.2%	22.6%	32.3%
5年	41.1%	19.4%	39.5%
4年	36.4%	22.9%	40.7%
3年	43.0%	20.6%	36.4%
2年	45.7%	24.8%	29.5%
1年	33.0%	41.1%	25.9%

保護者(年間)			
	できた	だいたいできた	できなかった
全校	40.3%	25.8%	33.9%
6年	43.4%	26.3%	30.3%
5年	41.0%	19.5%	39.5%
4年	38.2%	23.2%	38.6%
3年	38.8%	23.4%	37.9%
2年	46.6%	24.5%	28.8%
1年	33.8%	39.4%	26.9%

児童			
	できた	だいたいできた	できなかった
全校	37.6%	47.7%	14.8%
6年	19.1%	53.7%	27.2%
5年	38.5%	48.1%	13.3%
4年	27.7%	48.5%	23.8%
3年	43.8%	50.0%	6.3%
2年	50.5%	42.3%	7.2%
1年	50.4%	42.1%	7.4%

○全校で見ると保護者の「できた」「だいたいできた」の肯定的評価が65%前後であり、協働型学校評価の重点目標3つの項目の中で「できなかった」の回答の割合が一番大きかった項目となっています。

○保護者から見て、どの学年も1学期から2学期にかけて大きな変化が見られず、保護者から見たお子さんの様子について課題として捉えていることが分かります。

○児童は、全校で見ると85%の児童が「できた」「だいたいできた」と肯定的評価をしています。1～3年生までの「できなかった」の割合が7.5%未満なのに対して4年生が約24%、5年生が約13%、6年生が約27%と上学年が丁寧な言葉遣いについて課題意識を持っていることが分かります。

○保護者の自由記述には、「挨拶や感謝の言葉を心掛けるようになった。」「丁寧な言葉遣いで話せるようになった。」という意見も見られましたが、「言葉遣いに気をつけて欲しい。」「言葉遣いは引き続き注意が必要。ゲームの影響もある。」「テレビや上学年の言葉遣いを真似ることが多いので、気をつけて欲しい。」

など、心配する声も多数寄せられました。

「ていねいな言葉づかい」についての目標は昨年度から取り組んでいるものである。友達同士や地域の方とのかかわりにおいても、時と場所、相手に合わせた言葉遣いができることは大切なことと考えています。

学校では、自分の発した言葉が相手にどのように伝わるのかを学年の段階に合わせてとらえさせ、良好な関係を築く上でも、丁寧で、相手の気持ちを考えた言葉づかいができる子供をこれからも育てていきたいと考えています。また、友達を「〇〇さん」「〇〇ちゃん」などと、呼び捨てにせず丁寧な言葉遣いで接するように指導しています。

インターネットゲームで遊ぶ児童も増えており、通信のチャットで好ましくない言葉遣いが見られたりいじめにつながるケースもあつたりするということが報じられています。保護者からも心配する声が寄せられており、今後も情報モラル教育等も含めて、家庭と学校が連携して取り組み、相手に思いやりを持って丁寧な言葉遣いができる児童を育てていきたいと考えています。

保護者からは、「丁寧な言葉遣いは周りの大人が心掛けなければならない。」という意見もいただきました。まさにその通りだと思います。教職員も改めて意識し取り組んでいきたいと思っています。

3 家族や地域の方へ

☆家族や地域の方に進んで挨拶をする。

保護者(1学期)

□できた ■だいたいできた □できなかった

学年	できた	だいたいできた	できなかった
全校	55.5%	40.0%	4.5%
6年	60.7%	35.6%	3.7%
5年	61.4%	34.8%	3.8%
4年	48.8%	47.2%	3.9%
3年	59.8%	39.3%	0.9%
2年	54.5%	41.1%	4.5%
1年	47.0%	42.6%	10.4%

保護者(2学期)

□できた ■だいたいできた □できなかった

学年	できた	だいたいできた	できなかった
全校	59.0%	34.6%	6.4%
6年	70.1%	27.8%	2.1%
5年	69.6%	28.9%	1.5%
4年	52.5%	41.5%	5.9%
3年	45.8%	34.6%	19.6%
2年	61.6%	37.5%	0.9%
1年	53.4%	37.1%	9.5%

保護者(年間)

□できた ■だいたいできた □できなかった

学年	できた	だいたいできた	できなかった
全校	57.2%	37.4%	5.4%
6年	64.7%	32.3%	3.0%
5年	65.5%	31.8%	2.6%
4年	50.6%	44.5%	4.9%
3年	52.8%	36.9%	10.3%
2年	58.0%	39.3%	2.7%
1年	50.2%	39.8%	10.0%

児童

□できた ■だいたいできた □できなかった

学年	できた	だいたいできた	できなかった
全校	76.6%	20.7%	2.7%
6年	71.3%	25.7%	2.9%
5年	77.0%	20.7%	2.2%
4年	80.0%	15.4%	4.6%
3年	84.8%	15.2%	0%
2年	75.7%	23.4%	0.9%
1年	71.9%	23.1%	5.0%

○1年間を通じて保護者の「できた」と「だいたいできた」を合わせた肯定的な割合が94%と非常に高い項目となっています。多くの学年の保護者が1学期以上に2学期の挨拶がよかったと判断しています。但し、3年生の保護者は、2学期の挨拶が「できなかった」と感じられた方が20%近く見られました。

- 児童も、「できた」と「だいたいできた」を合わせた肯定的な割合が95%以上となっており、挨拶への意識を強く持ち、積極的に取り組んでいることがうかがえます。
- 保護者の自由記述には、「いろいろな場面での挨拶ができていた。」「家族の間でも、基本的な挨拶は必ずすることができた。」「街頭指導時の挨拶がよくなっている。」など、よくできたとの声が多数寄せられています。一方で「大きな声で挨拶して欲しい」「地域だけでなく知り合いの人にも進んで挨拶して欲しい」「挨拶と言葉遣いは継続して取り組みたい」といった声も寄せられました。

自由記述には、家庭や地域・学校の中で「挨拶」がとても大切なことであり、挨拶のできる子供になってほしいという願いが多く書かれていました。また、「家庭では、なぜそうしなければいけないのかを引き続き指導していきたい。」「親からも毎日声掛けする習慣を付けていくことが大事だと思います。」といった意見が寄せられており、家庭や地域で挨拶を認め、励ます雰囲気が作られていることを感じています。一方で、「旗振りの時に挨拶が少ない。」「地域の方への挨拶はできていない」という意見もいただきました。

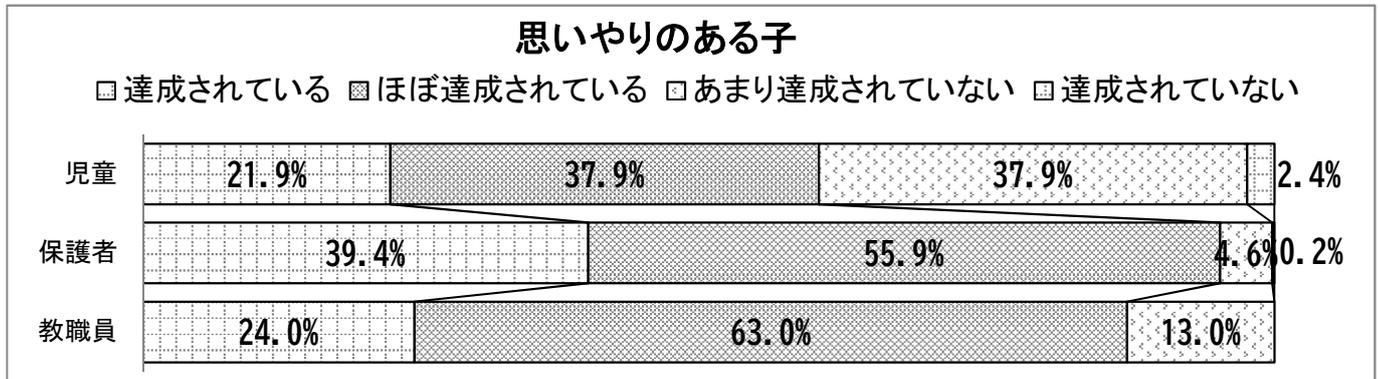
学校では、挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、気持ちのよい挨拶は心を非常に和ませる大切なものであると考えています。朝、帰りの挨拶、授業の始まりと終わりにきちんと挨拶する習慣を身に付けるように指導しています。廊下ですれ違ったときに、きちんと立ち止まってお辞儀をしながら挨拶する子どもも多く見られます。コロナ禍の中、大きな声を控えることを心掛けていかなければならないということもありましたが、たとえ小さな声でも、相手と目を合わせて気持ちのよい挨拶をすることができるよう家庭と地域と学校とで指導と声掛けを続け、今後も「笑顔と挨拶のあふれる学校」そして地域を目指して取り組んでいきたいと思っています。

教育目標に関するアンケート調査結果について

本校では、教育目標である「心豊かにたくましく、進んで学び、共に高め合う長町の子供」を受け、目指す児童像を設定し、日々の教育活動に取り組んでいます。今年度も下記の3つの項目において、保護者・児童・教職員がどの程度達成されていると感じているかをアンケートにより調査しました。

1 思いやりのある子

【低】友達と仲良くできる子 【中】助け合い、協力して活動する子 【高】相手の気持ちや立場を考えて行動する子



保護者の「達成されている」と「ほぼ達成されている」を合わせた割合は約95%と肯定的な評価をいただいておりますが、児童自身は「あまり達成されていない」「達成されていない」の回答が約40%となっています。

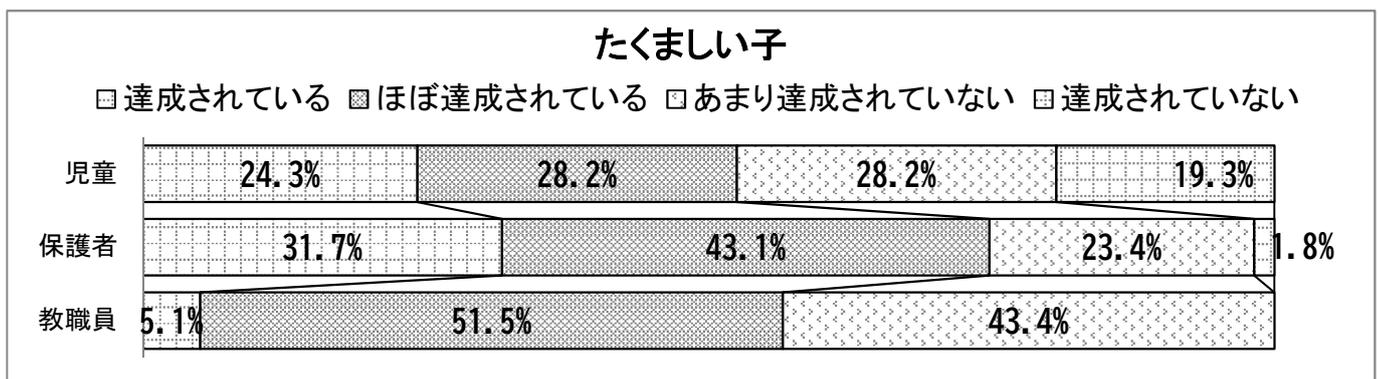
学校では、コロナ禍の中、文科省の新しい生活様式に準じた「長町小学校ガイドライン」を作成し、うがい手洗いの励行、「密集」「密接」「密閉」の回避、大きな声を控えるといった活動を徹底し、感染防止を第一に取り組んできました。特に密集を避けて来た学習により、子供たち同士のコミュニケーションの機会は例年よりも減少せざるを得ませんでした。そのようなことも児童による肯定的な意見が少なかったものの一因ではないかと考えています。

学校では、来年度は感染症対策を十分に行いながらも、子供たちがともに頑張る活動を増やしていきたいと考えています。道徳や学級活動等の学習、たてわり活動のような異学年集団の活動を行うことにより、相手の個性を尊重し、互いのよさを認め合い、思いやりの気持ちを持ってかかわる子供たちを育てることを目指して日々取り組んでいきたいと考えています。

授業を通したものばかりではなく、家族や友達同士、上級生と下級生のかかわり、そして地域とのつながりという社会生活の中で、相手の立場に立って相手の気持ちを大事に考えること、相手を尊重する心を育てていきたいと考えています。

2 たくましい子

【低】外で元気に遊ぶ子 【中】進んで体をきたえ、元気に運動する子 【高】進んで体をきたえ、ねばり強く頑張る子



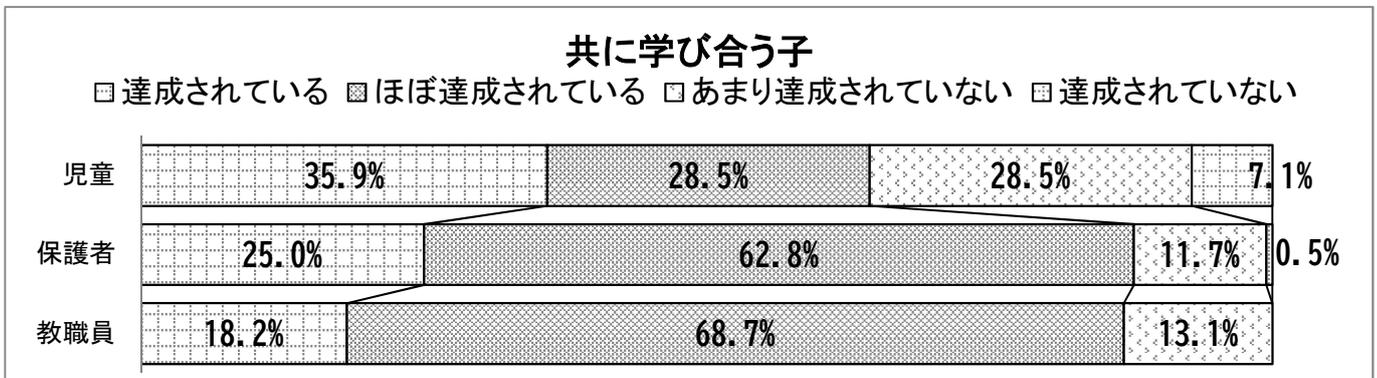
3つの項目の中で、保護者・児童・教職員の「あまり達成されていない」「達成されていない」を合わせた回答の割合が一番大きかった項目となっています。

学校では、コロナ禍の中、当初は感染防止のために遊具の使用や放課後の遊びを禁止にしていました。体育でも休み時間でも密集するものは避けて行わざるをえませんでした。保護者からも「コロナの影響により外で運動する、遊ぶ機会が大幅に減ったことを危惧している。」「今年度はコロナの影響で外遊びなど制限が多く、なかなか体を動かせていなかった。」といった意見をいただきました。

今後は感染防止策を徹底しながら、授業での運動量の確保や、質を高めること、運動の楽しさを味わえる授業づくりを行っていきたくと考えています。また、状況に応じてガイドラインの見直しを随時行い、子供たちが授業及び授業以外の場面において、体を動かすことの楽しさや大切さが子供たちに伝えられるような具体的な手立てを考えていく必要があると考えています。

3 共に学び合う子

【低】よく見て、よく聞いて学習する子 【中】話をよく聞き、よく考え学習する子 【高】共に学び、意見を出し合いながら高め合う子



保護者の約87%が「達成されている」「ほぼ達成されている」と肯定的な評価をしており、教職員も約87%が肯定的な回答をしています。しかし、児童は、「あまり達成されていない」「達成されていない」と答えた割合はやく36%であり、十分ではなかったと感じている児童が多かったことがうかがえます。

授業中の教室を見て回ると、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでおり、「話をよく聞き、よく考えて」学習しています。しかし今年度は、感染防止のためグループ学習など、お互いに意見を出し合う対話的な学習をする機会を多くすることはできませんでした。

来年度は、密集しなくても互いの意見を出し合い、学び会える工夫した授業づくりを検討し、子供たち自身が「共に学び合う」ことを実感できるようにしてきたいと考えています。来年度の校内研究を「道徳」とし、自己を見つめ、友達と意見や思いを交わしながらよりよい生き方を考える授業を行うことを目指していきたいと考えています。また、他の教科の学習においても、友達の話や意見をよく聞き、よく考えて自分の意見を持ち、その考えが伝わるように工夫して発信できる子供を育てられるように取り組んでいきたいと考えています。

学校の自己評価結果を踏まえた学校評議員・学校関係者評価委員のご意見

学校の自己評価に対して、過日行われた学校評議員・学校関係者評価委員会において、委員の皆様から御意見をいただきました。以下に、主なものを紹介します。

〔重点目標「進んで自分の役割を果たす子ども」について〕

- ・1年を通して、子供たちが、家のお手伝いや役割を進んで行っているのはすばらしい。保護者が子供と目標を共有して取り組んできた成果であると思う。
- ・家族の一員として、自分の役割を行うことが自然とできることは、子供の自立につながると思うので、今後も継続してほしい。

〔重点目標「ていねいな言葉づかいのできる子ども」について〕

- ・蛸薬師に毎日お参りしている。ちょうど下校時刻。上級生が下級生の手を引いている姿が見られた。大変感銘を受けた。ぜひ褒めてあげてほしい。挨拶がとても良くて立派だ。
- ・挨拶が上手でかわいらしい子供たちだ。笑顔で元気に挨拶してくれるので、子供たちから元気をいただいている。
- ・家庭での思いやりの言葉はとても難しいのに、それでも65%もの保護者が肯定的な評価をしているのはとてもすばらしいことだ。児童の自己評価も高いことから、家庭でも丁寧な言葉遣いや挨拶をしようとして取り組んでいることがうかがわれる。

〔学校行事について〕

- ・行事がなかったので、運動会や学習発表会などの場で6年生がリーダーシップを発揮して達成感や責任感を味わうことができなかつたことが残念だった。ぜひ中学校に進学して活躍してほしい。
- ・修学旅行に行けて良かった。一生の思い出になる。中学校でも良いところを引きついで指導していきたい。

〔コロナ禍の影響及び対応について〕

- ・4・5月休校による学習面の影響が心配だ。
- ・コロナ禍による様々な制約がある中で、子供たちに満足感や達成感を持たせることが難しくなっている。今後、コロナ禍の中でもできることを行って、子供たちの心を満たしていきたい。
- ・保護者のコロナ不安はやはり大きいと思う。しかし、自由記述に否定的な意見があまり見られないのが十分すごい。きめ細やかな対応が効いていると思う。
- ・一見変わっていないように見えるかもしれないが、いろいろコロナ禍の弊害は出ている。中学校でも小学校同様、学校への行きづらさを感じている子も見られてきた。中学校でもきめ細かくやっていきたい。

〔その他〕

- ・本日の授業参観を通して子供たちの元気な様子をうかがうことができた。様々な制約がある中でも落ち着いて授業を受けていて立派だった。
- ・道路の歩き方では、車道にはみ出してしまう子も見られるので、気をつけてほしい。

本校の教育活動についての保護者の皆様のご意見やご要望

保護者の皆様から、本校の教育活動に対しましてたくさんのご意見やご要望をいただきありがとうございます。学校として真摯に受け止め、改善が必要なところにつきましては検討していきたいと思っております。

以下に一部をご紹介します。

〔学校の取組〕

- ・担任の先生だけでなく、教科担任をはじめ、学校全体で一人一人の子どもを見てくれていると感じています。
- ・児童自身が、困っていたり悩んだりした時に助けを求めてもいいんだという気持ちでいられる、学校の体制を普段から構築していただけたらと思います。
- ・6年間大変お世話になりました。適切に対応していただき感謝しかありません。難しい時代ですが、これからも時代に合わせた教育をお願いいたします。

〔学校行事〕

- ・授業参観などがなかった分、学級だよりで教室の雰囲気や様子が知れて良かった。
- ・行事が無くなったのが残念。
- ・運動会はあった方がいいが、今年度同様、それ以外の行事は少ない。
- ・時間を分散させて等の対策で、授業参観が実現できたらなと思いました。

〔新型コロナウイルス感染症対応〕

- ・難しい状況の中子供たちが楽しく安心して過ごせるような配慮に感謝。
- ・コロナで外遊びが難しいので、運動を多く取り入れてほしい。
- ・コロナ禍の中、先生方のご尽力で子供たちが元気に過ごすことができ、大変感謝しております。いつもありがとうございます。
- ・コロナで遊ぶところがないため、体育館の開放もしてほしい。
- ・新しい生活様式に基づいた取り組みがよくできている。
- ・学年を越えて交流が持てたり、高学年の姿を見ることができたりする機会を今後も続けていただきたい。(コロナで仕方ない部分も。次年度以降できることを期待している。)
- ・コロナ禍にあっても子供たちが心身共に健康で安全に過ごせるように願っている。いつもありがとうございます。
- ・コロナ禍という難しい学校生活ですが、少しでも楽しめる時間を作ってほしいです。勉強しかやることがない、イベントがなくつまらないという言葉ばかり聞く一年でした。
- ・コロナ禍でもリモート見学やオーケストラ(縮小版)でいろいろ対応してくださって有り難かったです。授業参観(工夫して行って欲しかったです)やスチューデントシティが中止になってしまい残念でした。
- ・今までの学校行事をコロナ対応で行ってほしい。
- ・コロナ禍の中でも子供たちは、明るく学校生活を楽しんでいる様子が見かけられました。

〔担任等による指導〕

- ・ 欠席分の学習について担任から子供へ声掛けがあり感謝。
- ・ 自主学習をこまめに見てくれるのが励みになったようです。ありがとうございました。
- ・ 毎日楽しく通学している。子鹿集会が楽しかったようだ。来年は行事が行えますように。日々の授業ありがとうございます。
- ・ アメとムチという多少の厳しさも大事だと思う。先生たちの力が偉大だと思います。よろしく願います。
- ・ 安心して通学できるのは先生方関係各位のおかげです。ありがとうございました。
- ・ 忘れ物の指導を厳しく願いたい。
- ・ 担任の先生が一人一人をよく見ている。
- ・ 連帯責任で関係のない子供に責任を負わせるような指導はしないでほしい。
- ・ 持ち物連絡について、前日ではなく早めに連絡をしてほしい。
- ・ 子供の変化を見つけたら、家庭にすぐ教えてほしい。
- ・ クラスの人数が多いにもかかわらず、個々をしっかりと見ていただき伸ばしていただけていることに感謝しております。

〔学校評価について〕

- ・ 元気な子供らしい姿を見られるような目標がよい。
- ・ 目指す児童像について、授業等でどのように子供に伝え、それに対して返ってくるものを知りたい
- ・ 目標を持つことで、日々の意識や行動がよくなるように見守りたい。
- ・ 全体の仕組み自体の見直しをお願いします。子供たちと話し合える、理解している子供もいればできない子もいます。評価カードを含め、もう少し簡単にフィードバックできるようにしてほしいです。
- ・ 目標を達成するために具体的にどのような活動を行ったのか、どの活動に当たるのか知りたい。
- ・ 今年度はコロナの影響で、学校でのイベントがなく、学級での学習の様子を見ることができなかったので評価が難しかった。
- ・ 学習も大事だが、人間性を育むことも大事。学校生活の学びは本人の成長につながっている。
- ・ 協働型アンケートの廃止を強く希望する。毎年、負担。不要である。
- ・ 家庭と学校との連携で同じ目標が行えてよいと思います。社会生活をしていく上で基本的な生活態度が身につくように、また、学習面はその子の理解度に合わせた対応が出来たらと希望します。